

紅夢 (1991)

大紅灯笼高高掛
RAISE THE RED LANTERN

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 香港／中国

色彩 Color

時間 125分

初公開日 1992/04/11

公開情報 東和プロモーション=ヒーロー・コミュニケーションズ=ケイエスエス提供／東宝東和

【キャッチコピー】

深紅の灯笼がゆらめく。 女の愛とパッション。 1920年・中国 19歳の頌蓮に訪れた 数奇な運命—
— 鮮烈の映像美に 女性たちの 妖しい情念を刻む

【解説】

蘇童の小説『妻妾成群』を原作とする張藝謀（チャン・イーモウ）＝コン・リー・コンビの第3作。タイトルが物語る通り、今回も“紅”が主役の張芸術は相変わらずだが、物語が前作「菊豆」などよりも大分俗っぽく面白い。

20年代の中国。父に先立たれ口うるさい義母から逃れるため、19歳の頌蓮は地元の素封家の当主との婚姻を承諾、彼女より先に本妻を含め三人いる妻妾の四番目として、彼の屋敷に入る。一院～四院と呼びならわされる彼女らの居室の外に赤い提灯が点れば、そこに旦那＝陣佐千のいる証しとなり、女たちはみんなその瞬間を待つのがだった。初夜の晩は、舞台の人気女優だった三院の梅珊の介入で何もなくて終わったが、すぐに無理矢理に女とされた頌蓮に二院の卓雲は同情的だった。が、頌蓮の座を担う召使いの雁兒は彼女に露骨に意地悪くした。ある日、父の形見の笛のなくなったのに気づいた頌蓮は、雁兒の部屋にそれを探すと、その中じゅう飾られた赤い提灯に驚嘆する。そこには呪い人形も打ちつけてあり、それに彼女の名があった。文盲の雁兒に字の書けるはずがない。梅珊の言によれば、それを書いたのは優しげに見える卓雲であり、彼女こそ旦那の関心を得るためにはどんな悪事もしてかしかねない女だとのこと。頌蓮は人が信じられなくなり、狂言で妊娠を訴えるが、これを下着についたメンスの血痕から卓雲に悟られ、密告される。頌蓮は悔しさまぎれに卓雲と医師、高の不倫関係を暴露し、卓雲は捕えられて惨殺されてしまう。その一部始終を目撃した頌蓮は精神に異常を来し、翌年の誕生日、旦那がうら若き第五夫人を迎える頃には完全に気がふれてしまっていた。封建的な中国社会のかつての姿を描くのはいつもながらだが、この閉鎖社会の特殊性はサドマゾ的であり、グロテスクを承知で、その辺を理屈もなく楽しんだ。製作総指揮ホー・シャオシェン（侯孝賢）。

【クレジット】

監督	チャン・イーモウ	Zhang Yimou
製作	チュウ・フウシヨウ	
製作総指揮	ホウ・シャオシェン	Hou Hsiao-Hsing
	チャン・ウエンツォ	
原作	スー・トン	
脚本	ニイ・ゼン	
撮影	チャオ・フェイ	Zhao Fei
音楽	立川直樹	
出演	コン・リー	Gong Li
	フー・チャイフェン	

マー・チンウー
ツァオ・ツイフェン
コン・リン